

L^AT_EX でサーカムフレックス (^) の後の空白を しっかり出力する

西原史暁

2016年10月8日

1 サークムフレックスの後に空白が出力されない問題

L^AT_EX では、`\textasciicircum` という命令を使うことで、記号のサーカムフレックス (^) を出力することができる。

ただし、L^AT_EX のソースコードで `\textasciicircum` の後に空白 (スペース) を入れても、その空白はうまく出力されない。つまり、`3 \textasciicircum 5` のように「3、空白、サーカムフレックス、空白、5」と入力したとしても、「3 ^5」のようにサーカムフレックスと5の間に空白がない状態になってしまう。

2 {} の追加による問題解決

ここでの空白をしっかりと出力するためには、`\textasciicircum` の後に `{}` (波括弧) を付ける。つまり、`\textasciicircum{}` とするのだ。例えば、`3 \textasciicircum{} 5` とすれば、「3 ^ 5」のようにサーカムフレックスと5の間の空白がしっかりと表示される。

<code>3 \textasciicircum 5</code>	<code>3 ^5</code>
<code>3 \textasciicircum{} 5</code>	<code>3 ^ 5</code>

3 他の命令の使用

そもそも `\textasciicircum` を使わないという手もある。その場合、`\verb` や `\mytt` という命令を使う。これらの命令でも、しっかりとサーカムフレックスの後の空白を出すことができる。ただし、基本的にタイプライター体で出力されるので注意が必要である。とは言え、サーカムフレックスをわざわざ出力しなくてはならない状況は、コードを示すときぐらいだろうし、そういった場合はタイプライター体で表示することにだろうから、問題になることはあまりないだろう。

さて、`\verb` という命令は、入力した文字通りに出力するための命令である。これを使えば、`\verb|3 ^ 5|` と入力するだけで、`3 ^ 5` と出力される。

また、`okumacro` パッケージには、タイプライター体で出力するための `\mytt` という命令が含まれてい

る。これはタイプライター体を出すために通常用いられる `\texttt` にいくつかの改善を加えたものである*1。なお、この命令を使うには、プレアンブルで `\usepackage{okumacro}` を宣言して、**okumacro** パッケージを読み込んでおく必要がある。

パッケージを読み込みさえすれば、`{\mytt 3 ^ 5}` と入力するだけで、 3^5 と出力される。なお、`\mytt{3 ^ 5}` でなく、`{\mytt 3 ^ 5}` となることに気をつけよう。`\texttt` とは違い、括弧の中に `\mytt` を入れるのだ。

比較のために、出力例を挙げておく。

<code>\texttt{3 \textasciicircum{ } 5}</code>	しばしば 3^5 を 3^5 のように表現します。
<code>\verb 3 ^ 5 </code>	しばしば 3^5 を 3^5 のように表現します。
<code>{\mytt 3 ^ 5}</code>	しばしば 3^5 を 3^5 のように表現します。

個人的には、`\mytt` が空白が間延びせず、一番すっきり出力できると思う。

ライセンス：

本文書は、にしはらふみあき西原史暁により、2016年10月8日に、<http://id.fnshr.info/2016/10/08/latex-circum/> において、クリエイティブ・コモンズ 表示 3.0 非移植ライセンスのもとに公開された。同ライセンスについては、以下のウェブサイトを参照されたい。

- <http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.ja>

*1 例えば、ピリオドの後の空白が余計に広がることなく。